

平成30年7月、本会議が「酪農教育ファーム推進委員会」を設立し組織的な酪農教育ファーム活動を開始して20年目を迎えました。これまで活動を続けてきた酪農家と学校現場の先生をはじめ、地域推進委員会の事務局も務める指定生乳生産者団体、活動の価値を認め活動をサポートしてくださる教育関係者や関係団体、学生等も含め、多くの方々の努力と思いが積み重なってここまで続けることができたのだと思います。

この記念誌「未来につながる酪農教育ファーム」では、これまでの活動のあゆみを取りまとめるとともに、9月22日に開催したシンポジウム「酪農教育ファーム20年を節目に」のパネルディスカッションの模様を掲載しました。このシンポジウムによって、未来につながるべき活動の価値と役割を共有することができました。

今、日本酪農は酪農家が減少し、とりわけ都府県

の生乳生産基盤の縮小に歯止めが掛からず、牛乳などの安定供給が困難になりつつあります。高齢化や後継者不足、相次ぐ自然災害、飼料価格の高止まりや施設、資材、機械、運賃の値上がりなど、酪農を取り巻く情勢について、消費者・国民の理解と支援なくして、酪農産業に未来はありません。酪農教育ファーム活動は、生産者が直接、消費者に思いを伝える絶好の機会であり、理解醸成のためにも、今後、一層重要と言えます。

一方、教育現場では新学習指導要領への移行の対応等もあり、酪農教育ファーム活動を取り入れるのが難しい現状があるとも聞きます。それでも、地域推進委員会や地域交流牧場全国連絡会、日本酪農教育ファーム研究会等と連携しながら地道に活動の実践者を増やしていくことが重要です。併せて、組織的な活動を継続するためには、活動を行っていない酪農家も含めた多くの方々に、活動の価値と役割を

ご理解いただかなければなりません。

この活動が、日本の酪農産業そのものを未来につながる役割の一端を担っていることは間違いありません。活動に携わっている皆様は誇りを持ってご自分の活動を継続しながら、自分の周りにも広げていただきたいと思います。

最後になりましたが、この記念誌の発行をはじめシンポジウムの開催や広告・広報活動など「酪農教育ファーム活動20年の節目の取組」の実施に際してご協力いただいた関係の皆様に対しまして、改めて御礼を申し上げます。

平成30年11月吉日

一般社団法人中央酪農会議  
専務理事 迫田 潔

【企画・発行】

一般社団法人中央酪農会議  
酪農教育ファーム推進委員会

【協力】

「酪農教育ファーム20年の節目の取組に係る検討会議」  
日本酪農教育ファーム研究会 会長／國分重隆  
日本体育大学児童スポーツ教育学部 教授／角屋重樹  
清水牧場（愛知県）／清水ほづみ  
ホクレン農業協同組合連合会 酪農部／佐々木真弓  
公益財団法人中央畜産会 副会長／姫田尚  
一般社団法人中央酪農会議 事務局長／内橋政敏

【編集・制作】

有限会社オフィスラ・ポート

【問い合わせ先】

一般社団法人中央酪農会議 業務部  
〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町2-6-1 堀内ビルディング4F  
TEL: 03-6688-9841 FAX: 03-6681-5295  
ホームページ: <http://www.dairy.co.jp/edf/>  
Facebook: <https://www.facebook.com/rakunoukyouikufarm/>